

素晴らしい大月の山々

(2009年11月～2012年11月大月市民の会新聞掲載)



黒岳の広葉樹林

写友27、大月山岳会会員 佐藤知津夫

朝焼けの滝子に沈む有明けの月

(撮影地：百歳山麓)



冬枯れに木花咲く御前山

(撮影地：猿橋駅付近)



素晴らしい大月の山々（一）

* プロローグ *



ハマイバ丸から霧氷と冬富士

市内の山には花の百名山で紹介された百蔵山や五百円札のデザインになった富士山の眺望で有名な雁ヶ腹摺山、歴史とロマンに満ちた岩殿山、又近年富嶽十二景に指定され多くのカメラマンが富士山の撮影に熱中する山々等、地元の人々以上に愛好家には四季を通じて関心のある山域であると言えます。

大月山岳会員として四十年以上山歩きを続いていると北海道から九州に至る登山者と山の話をする機会がありますが各々の地元の山々を紹介する話になりますと、私はきまつて小金沢山から滝子山に至る南大菩薩連嶺からの南アルプスの大展望と市内の山々のどこからでも望むことが出来る富士の眺望等を語ります。

登山誌にも多く紹介されている

中央線沿線のハイキングコースとして出版社より紹介されている山も多く、古き時代から山好きな人には非常に魅力のある市内の山々に抱かれて生活していることを改めて認識すると、日頃見慣れた山々の姿に日々関心を持つようになります。

健康増進に山歩きを

標高の最も高い小金沢山（二〇一四m）一帯は厳冬期、厳しい寒さに閉ざされ冬山を目指す初心者の良き入門コースとなります。又、それぞれの山は独特的な植生、地形、眺望を持つており、都心からやつてくる登山者には初心者からややハードなコースまでまさに山歩きのオアシスである事に気付きます。

皆様も是非近くの山に登り健康増進と、普段生活している町並みを山の上から眺め市内の山々及び豊かな自然の中で生活している素晴らしさを再認識する事をお勧めします。

なお今後数回に分けて山歩きで注意すべき点や、季節により見応えのある山域をご紹介したいと思います。

花の百名山、百蔵山

素晴らしい大月の山々（二）

* 楽しく山に登る *

体を冷やす汗をかかない

山の天気は変わりやすく気温が急激に下がる事があり体温の低下は体力を奪われます。このような時、防寒具は必需品です。また暑さ対策も必要でなるべく汗をかかないようゆっくりと歩き木陰で休憩する回数を増やします。

必要なことは自分の体調に見合った歩き方をする事です。又呼吸方法も重要な要素で、特に急な登りが連續する場合、踏み出す足を呼吸するペースにあわせると楽に登れます。

三点支持が原則

登山道は平坦な道ばかりではありません。倉岳山の山頂直下は滑りやすく御前山への登りはごつごつした岩が続きますが体のバランスを崩しても三点支持の原則を守れば安全です。必ず手足の三点で体を支撑して下さい。



ハマイバ丸の霧氷

秋から冬へ

十二月五日の朝、滝子山の山頂付近が新雪で輝いていました。

毎年必ず繰り返すこの姿を見ると紅葉の季節が終わり今年も冬山のシーズンがやって来た事を実感します。

必要な体力と装備

さて今回は山の楽しみ方や注意すべき点をお伝えします。登山の基本は安全に且つ楽しむことですが、それにはまず体力と装備が必要です。

一般的には標高が百メートル高くなると気温が約0・6度、酸素濃度が約一%下がると言われています。標高1000mでは気温が6度、酸素濃度は一〇%下がる事になります。

登山の楽しさは何と言っても山頂に立った時の感激と爽やかな涼風を浴びながら景色を眺めつつゆったりと時の流れを感じる稜線歩きですが、苦しい急登の中にも楽しさはあります。

足下に咲いた小さな花や落ち葉、樹間越しに見え隠れする町並み、木漏れ日を浴びながら流れる汗をぬぐう時の快感、改めて自然の中できている事を感じます。

このような楽しみ方の出来る山が市内の山であると言えます

山に登る楽しさ

素晴らしい大月の山々 (二)

* 倉岳山～大桑山縦走 *



落ち葉に埋まる大桑山の登山道

立野峠から倉岳山山頂へ

立野峠からは稜線の秋山側の雑木林が春先、素晴らしい新緑に包まれます。

道標に導かれ滑りやすい最後の急坂を登り切ったところが倉岳山山頂です。展望は南西に富士山、西に南大菩薩の山々と鳥沢から大月に至る町並みが箱庭のようです。

高畠山を目指して

山頂から一気に下り高畠山を目指しますが秋山側の新緑に癒されながら下りきったところが穴路峠で小篠からのルートと合流します。時折垣間見る富士山を眺めつつ天神山を超えると高畠山山頂でシーズンを通して多くの登山者が訪れます。展望は南に道志山塊と南西に富士山、北側は雑木に囲まれています。

更に大桑山を目指す

山頂から小篠に下るルートが一般的ですが更に大桑山を目指します。このルートは訪れる人が少なく一般的ではありません。

大桑山に至る道標に導かれヤブの中に突入、一寸危険な岩尾根を過ぎ尾根通しに登り詰めると大桑山山頂で展望は全くありません。

殆ど行き交う登山者がいない山道を冬は積もつた落ち葉をラッセルしながら下ると林道に出てやがて鈴懸峠に到着、

鈴懸峠から猿橋へ

ここから朝日小沢ののどかな道をのんびりと下ります。時折すれ違う人と交わす言葉に暖かみを感じつつ猿橋まで約7時間の山歩きに心地よい疲労感を感ずるルートです。

岩魚棲む月屋根沢の清流

今回紹介する山は普段私がトレーニングがてら歩いている倉岳山から大桑山に至るルートです。

梁川駅を出発、梁川大橋を渡り二十分ほどで林道脇に設置された立派な導標に導かれ山道に入ります。

岩魚棲む月屋根沢の清流
岩魚の棲む月屋根沢の清流に沿って登りますが、夏は天然のクーラーとなり時折杉や桧に混じりモミやトチの木の大木に出会う清々しい山道です。

途中、飲料禁止と書かれた水場を過ぎると沢から離れ、山腹を巻くように植林地を登ります。樹間越しに見える切り開きを目指して登り切ったところが立野峠です。

素晴らしい大月の山々（四）

* 扇山～百蔵山縦走 *

大久保のコルから扇山山頂へ

一汗かいて登り切ったところが大久保のコル、道標を見ながら右に折れ傾斜の緩くなつた道を尾根通しに登ると扇山山頂です。広い山頂からは南西の方角に杓子山を従えた富士山の眺望が素晴らしく道志山塊から丹沢まで延々と山並みが続き、東側には上野原から東京に至る街道筋が良く見えます。

百蔵山を目指す

山頂からは四方津、山谷方面に下る道とままで登ってきた道を下るのが一般的ですが今回百蔵山を目指します。

尾根道を一旦大久保のコルまで戻りそのまま直進します。大久保山から先は急降下、春先には素晴らしい新緑に囲まれ山ツツジの咲く縦走路をスリップしないよう慎重に下ります。

途中ナイフリッジのような尾根を通過し下りきると百蔵山への登りになります。岩のごつごつした急斜面をゆっくりと登り、登り切ったところが百蔵山山頂です。

富士山の眺めが素晴らしい

今回紹介する扇山と百蔵山は中央線沿線に数ある登山コースの中、高尾山以西で最も人気のあるコースではないかと思われ山好きな人達には古くから親しまれています。

鳥沢駅を出発

梨の木平に向かう

休日の朝大勢の登山者が降り立つ鳥沢駅を出発、中央道をくぐり大久保部落を通つてゴルフ場入口から梨の木平へ、ここまで1時間ちょっと、暖かい日差しを背に受けてのんびりと歩きます。

立派な道標の立つ梨の木平からは神社の参道のように良く踏まれた杉林の中を登り、途中水呑杉と小さな祠を通過して雑木林に出ると少しづつ展望が開けます。

花の百名山

山頂からは西側の下山路を下り、ヒトリシズカ、ニリンソウ、リュウキンカ、スマレ等の咲く植林地を下り下和田を通つて猿橋駅に至る約6時間程の山歩きです。



百蔵山頂より雲海と富士山

素晴らしい大月の山々（五）

* 高川山～むすび山縦走 *

地を登り樹相がナラやハンノキ等の雑木に変わると木漏れ日を浴びながら一汗かく気持ちの良い尾根道の急登になります。

休憩ポイントから高川山山頂へ

途中尾根を直登する男坂、巻き道の女坂のコースに別れ、合流すると山頂直下の休憩ポイントです。この付近は新緑や紅葉の樹間越しに見る富士山や南大菩薩連嶺の眺めが素晴らしい山頂とは又違った趣があります。

高川山山頂より早春の富士山



初狩駅を出発

今回のコースは扇山、百蔵山と並び中央線沿線の人気コースです。

春先の休日高川山に登る登山者で大賑わいの初狩駅を出発し駅東側のガードをくぐり自徳寺へ、ケヤキ、杉の大木の下を通過し振り返ると初狩の家並みの向こうに大きな山裾を見せる滝子山が素晴らしい。

男坂、女坂コースを登る

墓地脇の林道を歩くこと三十分程度でコースが分かれます。林道沿いに進むと玉子石を経て比較的緩やかなコースですが一寸急で新緑の綺麗な尾根筋の男坂、女坂コースに向かいます。雨上がりには滑る泥道の急坂となる植林

むすび山を目指す

山頂からは下山ルートがいくつもありますがややハードなむすび山へ向かいます。

禾生、田野倉分岐を通過すると大岩のごろごろした滑りやすい道を急下降、ロープや立木につかまり三点支持をしっかりと守りながら下りると天神峠に着きます。

小さな社があり田野倉と花咲を結ぶ往時の歴史を感じます。道は緩やかなアップ、ダウンを繰り返し、春先ダンコウバイの花を眺めながら耳を澄ますとすぐ右下に流れ

カタクリ咲くむすび山

正面の菊花山が大きくなると尾根の終点むすび山に到着。春先、大月市街を見下しながら北側斜面に咲くカタクリの花を撮影し大月駅まで約4時間ほどの山歩きです。

素晴らしい大月の山々（六）

* 雁ヶ腹摺山（一八七四m） *



雁ヶ腹摺山より初冬の富士山

奥山の名残が残る道

駐車場から右手の尾根に取り付き、かつて山小屋の建っていた熊笹の生い茂る道を道標に従つて登ります。所々ミズナラやダケカンバの大木が現れ、かつての奥山の名残が感じられる道です。

暫く登ると水場に出会いその後一寸急な岩場が現れます。立木やしつかりした岩角を支えにして登ります。登り切ると道は緩やかになりここからは秋にはカエデの紅葉、春先には新緑のダケカンバの巨木とその樹間越しに見える残雪の富士、又ダケカンバの間にトウゴクミツバツツジの鮮やかな花が咲く素晴らしい山歩きです。

道は一旦平坦になり更に露岩のある急な道になりますが南面の展望が開け吹切尾根が眼下に広がる富士山の絶好の展望地となります。

いにしえの奥山

今回の山は数ある大月の山々の中で最も大きく雄大で、大鷲が羽を広げるが如く支尾根を派生する雁ヶ腹摺山です。

戦後、五百円札のデザインとなつた富士山の眺望はあまりにも有名で、大月山岳会においては未だ林道もない頃山好きな若者が集い、金山峠越えや真木川、小金沢を行する各コースを踏破し、当時大峰に建つていた小屋に宿泊する一泊二日の奥深い山でした。

大峰を出発

現在は真木小金沢林道を大峰の駐車場迄車で行き、ここから登る最も手軽で誰でも登れる山です。

富嶽十二景一番山頂へ

新緑、紅葉、晚秋の休日の早朝には大勢の写真家が朝日に染まる富士山を撮影するため四季を問わずに通う有名な撮影ポイントです。露岩帯を登り切ると広々としたカヤトの原、周囲を黒木に覆われた草原を登り切ると標高一八七四メートルの山頂に到着。南面に聳える富士山は吉田大沢が深く切れ込み、近県から訪れる登山者や写真家に「大月の富士山が一番」と言わしめる姿です。

下山は登ってきた登山道を下りますが特に露岩帯の下りは膝に負担をかけぬようゆっくりと下り、登山者のすれ違いには登る人に道を譲るよう心がけましょう。大峰を起点にした2時間程度の素晴らしい山歩きです。

素晴らしい大月の山々（七）

* 湯ノ沢峠～大倉高丸（一七八一m）～ハマイバ丸 *



大蔵高丸山頂の霧氷

道標に従い登山道を右に折れて大蔵高丸を目指しますが、直進すると湯ノ沢を下つて桑西に至る登山道の十字路です。

歩き始めてすぐ一面の草原でここが湯ノ沢峠のお花畠、開花時期は異なるがスズランやオオバギボウシ、ショウマ等が咲く気持ちの良い草原です。

富士山と南アルプスの大展望

草原を横断し、歩きやすくなつた雑木林の中の登山道を上りきると突然展望が開け南面にハマイバへの稜線を前景にした富士山、西側には甲府盆地を隔て甲斐駒ヶ岳から北岳、赤石岳、光岳まで延々と続く南アルプスの山々、東側足下には大月の町と千メートル級の山、自然の作り出した大展望を持つ大蔵高丸山頂です。

素晴らしい稜線漫歩

ここからハマイバ丸までは緩やかなアップダウンを繰り返す稜線歩き、ダケカンバの巨木やカエデ、ミズナラの林や時折現れる草原、春先のトウゴクミツバツツジの花と秋の紅葉、又寒さ厳しい厳冬期には一面霧氷の風景に一変し全ての木々に花を咲かせ、富士山や南アルプスの山々とのシンフォニーが素晴らしい稜線です。

遠くに東京湾の眺め

展望のないハマイバ丸山頂を通り過ぎ一寸下つたところにある大きなケルンから東側に踏跡を辿ると東面が開け、ここからは大気の清んだ時大月の遙か遠く東京湾まで見える時があります。

駐車場から避難小屋を右に見て直進すると立派な道標の建つ湯ノ沢峠でここは既に稜線上に位置し大月の町が見渡せます。

連嶺の十字路湯ノ沢峠

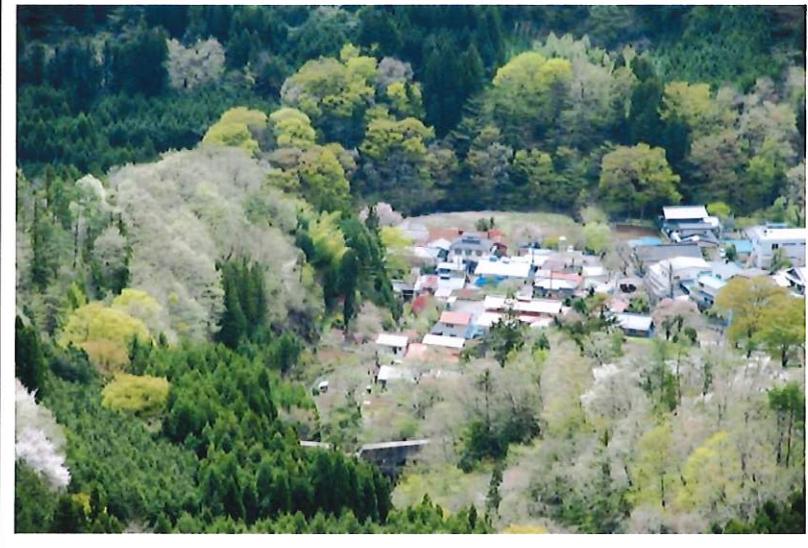
今日は連嶺の稜線では季節を問わず最も人気のある大蔵高丸からハマイバ丸の稜線歩きです。真木川から湯ノ沢沿いのルートもありますが手軽な湯ノ沢峠を起点にしたコースで、峠までは初鹿野から焼山沢林道を車で登ります。

湯ノ沢峠から往復3時間弱、亜高山ならではの素晴らしい稜線歩きがこんな身近にあります。

素晴らしい大月の山々（八）

* 御前山～九鬼山（九七〇m）～鈴懸峠 *

断崖の下に山里が



御前山より早春の山里

南側にスッパリと切れ落ちた岩壁の下には九鬼山から大桑山に至る山稜に囲まれた田中や小沢の家々が点在する絵のような山村風景です。

御前山から西に雄大な富士山を見ながらの稜線歩きは沢井沢の頭を超えて馬立山の直下では一寸した岩登りが体験できます。

春先、眩しいばかりの新緑の中ミツバツツジを眺めながら下りると札金峠、切り通しのような峠は往時の歴史を感じます。

ここからは良く整備された登山道でヒトリシズカ、ボケ、スマレ等の花の咲く気持ちの良い山道でコンバの休場と呼ばれる所にはベンチもあり吹き渡る涼風に昼寝でもしたくなる場所です。

九鬼山山頂へ

登山道は九鬼山の北側ザレ場をトラバース、山頂に突き上げる露岩の尾根を登り切ると九鬼山山頂に到着です。展望は北側の南大菩薩から奥秩父の山々ですが少し西に移動して禾生への下山道分岐当たりからは富士山の眺めが一品です。

キイチゴを摘みながら

今回は禾生に下山せずそのまま直進しゃブ道に突入、群生するキイチゴを摘みながら稜線通しに大きなピークを3つ超えると展望のない高指山に到着。更に踏み跡を頼りに稜線沿いに進むと桐木差山、行き交う人のいない静かな山道を下りきると鈴懸峠に到着です。

朝日小沢から田中に至る帰り道、歩き続けた稜線を見上げながら下る7時間程の山トラバースして登り切ると御前山山頂です。

一時間程で御前山山頂

登山道に入り、植林地から尾根筋の雑木になると露岩の登りとなり樹間越しに桂台の家々が見え、一汗かいて登り切ると神楽山分岐、道を右に進み、滑りやすい山腹をトライバースして登り切ると御前山山頂です。

素晴らしい大月の山々（九）

* 松姫峠～奈良倉山～大マテイ山 *

宮地山の彼方に見える富士山が絶景です。

松姫峠に戻る

帰り道は山頂から南側林道に向かつて急降下、富士山のビューポイントと銘打つ林道をのんびりと松姫峠へ戻ります。

大マテイ、ツルネ、ヌタ、ショナメ等大マテイ山周辺には聞き慣れない地名、山名が出てきます。又、登山道や標識が多いので入山前に松姫峠、鶴寝山、大マテイ山の地名を良く覚えておきましょう。

巨樹に囲まれて



鶴寝山のブナ

松姫峠からジブリの森へ

今回の山歩きは松姫峠を起点に富士山の眺望と森林浴です。立派なトイレ脇の駐車場から東に奈良倉山をめざし林道のゲートを超えるといきなり森の中、新緑から盛夏にかけて全てが緑に包まれる中に続く一本の道、まるでジブリの森に入り込んだような心地良い気分にさせてくれます。

奈良倉山に向かう

登りは林道とほぼ平行に小菅側を巻く回り道コースを歩きますが林道と違い自然林の素晴らしさが満喫できます。稜線上の小さなピークの北側を巻くと植林地に変わり林道に合流、暫く林道を歩くと左側に奈良倉山への標識があり再び登山道に突入、五分程で奈良倉山山頂です。山頂の南面にある富士山の展望地からは檜の木尾根や

松姫峠のトイレ脇からまず鶴寝山を目指し峠上の切り開きを過ぎるとナラの木林になります。独特な木肌を見せ見事な迄に林立するナラの木林の中に建つ導標に従い鶴寝山へ、次の導標は鶴寝山“巨樹巡りコース”へ、登るに従いブナ混じりになり山頂に到着。“関東の富士見百景”の案内があり富士の眺めが絶景です。山頂を過ぎるとまさに巨樹のオンパレードで特に木道で保護されたブナの大木が見事です。

静かな大マテイ山頂

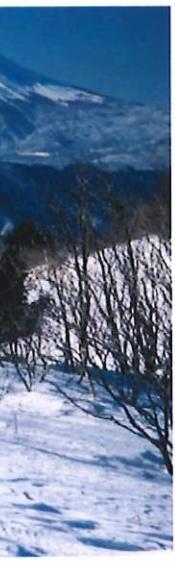
下りきったところが山沢入りのヌタで導標に従い日向道ルートで大マテイ山へ、南側斜面をトラバースする事二〇分程で山頂への分岐を示す導標があり登り切ったところが大マテイ山山頂です。

雑木に囲まれ展望のない静かな山頂に残る朽ちかけたベンチ、腰を下ろすと静けさの中に自然の息吹が感じられます。大マテイ山からの帰り道は来た道を松姫峠に戻る三時間程の山歩きです。

素晴らしい大月の山々（十）

* 積雪期の白谷ノ丸 *

水場で、ツララ下がる湯ノ沢避難小屋はすぐ上です。



白谷ノ丸から厳冬の富士

ここまで1時間程、小屋上の峠から道を左にとり雪で倒れた笹道に思いの外時間がかかります。笹が途切れると白ザレ、ここから樹林帯の中は積雪が多くなりトレースの無い時深いところで1m程のラッセルを強いられます。

雪との格闘が終わるとマイナーピークに到着、ここから山頂までは雪の表面が固くクラフトシャイゼンの刃先が小気味よい音を奏でるアルプス並の雪山が味わえます。

ここまで1時間半程、山頂部は三つのピークから成り最高点からは南に裾野から山頂まで白一色の冬富士、西側には甲斐駒ヶ岳から光岳まで延々と連なる冬の南アルプス、その北に対峙する八ヶ岳、いずれのピークも真っ白な厳冬期の展望です。

又、東側は黒木に覆われた雁ヶ腹摺山が大きくなおやかに横たわっています。

モルゲンロートに輝く雪面

見慣れたカヤトの原は一面の雪原に変わり、強い西風のため頂稜にはシユカブラの紋様、東面は吹きだまりになります。

この時期氷点下10℃以下の早朝には日の出と共に山頂部の広々した雪原が紫色から深紅に、そして黄色く変わる白谷ノ丸ながらではの莊厳な夜明けや、冬枯れの枝に氷花を咲かせる霧氷の美しさに遭遇します。

氷点下20℃以下で発生するサンピラーに感染したのは10年程前です。帰り道、温暖化が進む現在いつまでも市内にこのような素晴らしい冬山があつて欲しいと願うばかりです。

氷結の焼山沢を歩く

シーズン中車で難なく通過する林道を積もった薄雪にスリップせぬよう五〇分程歩くと焼山沢に入ります。陽の差さぬ沢沿いの登山道は深い積雪となり所々冰結します。夏道を外さぬよう何度も冰結した沢を横切り稜線目指して直登した突き当たりが

大月の白き峰

冬、降雪の後市内から周囲の山々を眺めると南大菩薩連嶺の中でその山頂部分にある草原を白く輝かせる白谷ノ丸（1920m）がひときわ目にできます。

今回装備、体力、技術の備わった冬山のエキスペードに許される積雪の白谷ノ丸をご紹介します。コースはアプローチの最も短い初鹿野から焼山沢真木林道の冬季ゲートが出発点です。

シーズン中車で難なく通過する林道を積もった薄雪にスリップせぬよう五〇分程歩くと焼山沢に入ります。陽の差さぬ沢沿いの登山道は深い積雪となり所々冰結します。夏道を外さぬよう何度も冰結した沢を横切り稜線目指して直登した突き当たりが

樹林帯はラッセル

素晴らしい大月の山々（十一）

* 鶴ヶ鳥屋山 *



生命感ずる鶴ヶ鳥屋山のブナ

たっぷりと森林浴をした後、登り切つたところが稜線です。

鶴ヶ鳥屋山山頂へ

右に登ると本社ケ丸左に鶴ヶ鳥屋山、両側に深く切れ込む稜線は枯れたブナの老木とその上に新たに芽吹く若木、複雑に絡んだ木々の根の上に続く登山道、左手樹間越しに

時折見える笹子の家並みと向かいの滝子山、右手には三つ峠とその上に乗る富士山等、心地良い涼風に吹かれながらアップダウンを繰り返すと鶴ヶ鳥屋山の山頂です。

森の中の山頂

周囲を数え切れない程のミズナラやブナで囲まれた山頂に佇むと目映いばかりの緑に思わず森の中に引き込まれそうです。

山頂の南側の僅かな切り開きから三つ峠の稜線上に乗る富士山が圧倒的です。

下山は山頂から急降下、トラロープや立木につかまりながら下りきると黒野田林道、右手に林道を30m程行くと初狩への下山路です。

5分程下ると唐沢橋への分岐ですが導標には“危険”的表示があり右手の近ヶ坂橋に下山します。アカマツの林を抜け下りきると丸田沢で林道に出ます。

林道の終わつたところが近ヶ坂橋でここから車道を初狩駅へ、小さな田んぼに実る稻穂の向こうに見える鶴ヶ鳥屋山に別れを告げる7時間程の山歩きです。

満ちあふれる生命

林道を横断し傾斜の緩くなつた森の中にあります。盛夏にはブナ、朴の木、ミズナラ、カエデ等の多様な樹相と巨樹、その葉を透かして入る光がまるで緑のフィルターを掛けた様です。

又、藪のない林床はヒトリシズカ等の植物が群生し眺めているだけで時の過ぎるのを忘れる素晴らしい森です。

素晴らしい大月の山々（十二）

* 本社ケ丸 *

一旦道を西にとりミツバツツジに囲まれた展望のない稜線を5分程登ると清八山山顶に到着、三つの山裾を中心とした富士山が絶景です。

又御坂黒岳や釈迦ヶ岳の向こうに南アルプス赤石、荒川、聖の三千ヶ峰から甲斐駒ヶ岳に至る大パノラマです。

本社ケ丸に向かう

清八山から再び清八峠に戻り本社ケ丸山頂に向かいいますが稜線上には所々岩場があります、バランスを崩さぬよう三点支持をしつかりと守って下さい。

ブナやカエデの大木とミツバツツジ、岩場からは圧倒的な富士と360度の大展望、それを繰り返しつつ小さなピークを3つ程超えると本社ケ丸山頂です。足下から清八山、笹子峠を経て大菩薩に至る稜線のうねりが絵のようです。

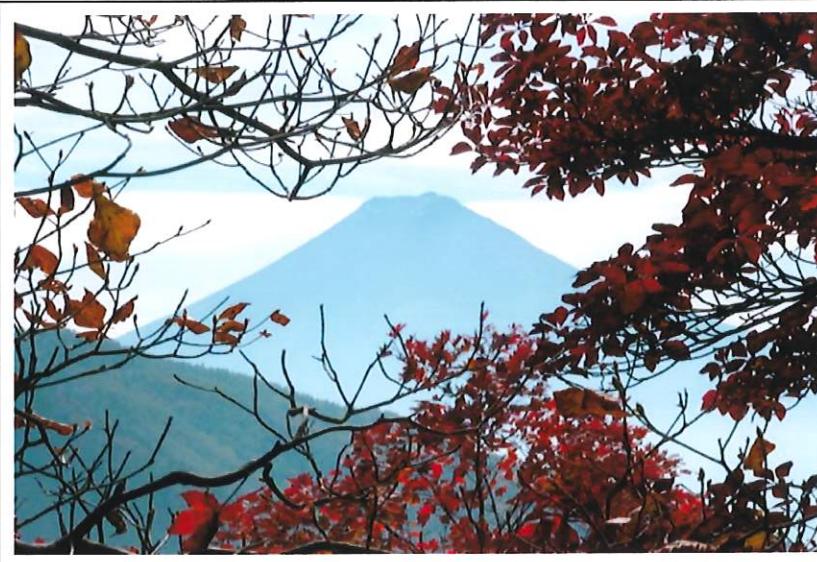
リニア変電所上から

周囲を1400mクラスの山々に囲まれた笹子にあつて最も標高の高い本社ケ丸（1631m）が今回の山歩きです。

本社ケ丸は標高の割に車を使うと意外に短時間で山頂に立てる山で、笹子追分より追分トンネルを経てリニアの変電所上まで車で移動しここから歩きます。沢沿いに林道を10分程歩くと山腹がきれいに伐採された植林地になりこれから登る尾根の途中迄良く見えます。

清八峠から清八山へ

導標と踏跡を頼りに広い伐採地を登り切ると雑木林になり途中ベンチのある休憩地を通過、徐々に小さくなる奥野沢の沢音を聞きながらカエデやブナの入り混じつづら折りの道を登り切ると清八峠です。



本社ケ丸より初秋の富士

山頂東側に素晴らしい森が

山頂から鶴ヶ島屋山側に少し下るとブナの巨木が生い茂る素晴らしい森があります。樹表面に刻まれた複雑な紋様は巨木の歴史を感じ、カエデの紅葉と素晴らしいコラボレーションを見せてくれます。

ドウダンツツジの真っ赤な紅葉

途中ドウダンツツジの大木があり秋空に映えた深紅の紅葉が必見です。春先のミツバツツジの花、ブナとカエデの巨木、それと展望に恵まれた素晴らしい稜線歩きです。

帰り道、山頂から足下に見えるリニア変電所に向かつて下山する往復4時間程度の山歩きです。

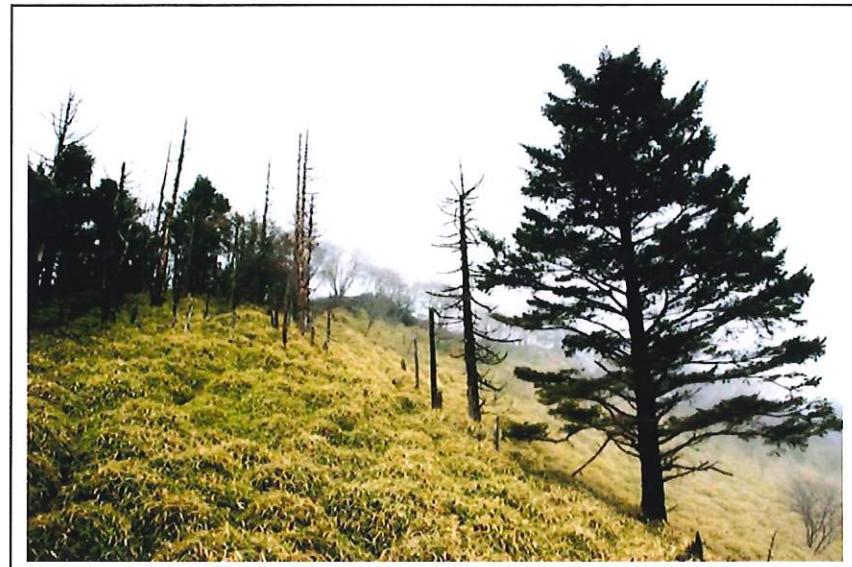
素晴らしい大月の山々（十三）

* 小金沢山 *

樹間越しに見える稜線を目指して登り切ると黒岳分岐、名の通り黒木に覆われた黒岳山頂は左に2分、連嶺の縦走は右に折れます。

1000mの連嶺を縦走

1000mの稜線は黒木に覆われ展望は殆どありませんがスズタケや苔に覆われた倒木、時折聞こえる鹿の遠吠えに耳をませながら歩く縦走路に太古の息吹を感じます。



スズタケ茂る小金沢山

途中岩場や小さなアップダウンを繰り返すと草原状の川胡桃沢の頭に到着、南に富士山、西に南アルプスが素晴らしい。

ここからいつそう背丈を伸ばした笹藪の中を縦走路中最も大きな鞍部を目指して急降下、目の前の牛奥ノ雁ヶ腹摺山が徐々に大きくなり下りきったところが水場の導標の立つ賽の河原、ここからは登り返しです。

南アルプスや奥秩父を眺めながら登り切ると牛奥ノ雁ヶ腹摺山山頂で南面が明るく開け富士山の眺めが素晴らしい。牛奥からは登山道が笹に隠れ立ち枯れた樹木に一層奥深さを感じます。

最高峰に立つ

小さなピークを3つばかり超えると小金沢山山頂で此処は既に大菩薩山塊の領域、隣には熊沢山と大菩薩嶺が続きます。

一面のスズタケの中、富士山の見える岩稜の下には初夏にはハクサンシャクナゲが咲き亞高山の雰囲気が感じられます。

富士山を眺めながらの帰り道、笹に隠れた登山道を外れ、ケモノ道に入らないように導標と目印の赤テープを確認しながら大峠に戻る往復7時間ほどの中級者向きコースです。

黒岳への登り

今回ご紹介する山は、数ある市内の山々にあって最も標高の高い小金沢山（2014m）です。

この奥深い山は市街からは殆ど眺めることができず周囲の山に登つて初めて遠望が可能な最奥の山です。今回は大峠を起点に牛奥ノ雁ヶ腹摺山（一九九四m）を経由し小金沢連嶺を縦走する往復の山歩きです。

素晴らしい大月の山々（十四）

* 菊花山～厄王山 *



菊花山山頂からの冬富士

登山道はここから沢井側の山腹を東向きに登り、登り切ったところが西根の稜線で金比羅宮からの直登ルートと合流します。東西に延びる稜線は登るに従い両側が切れ落ちた岩稜となり、市街地が真下に見えるようになります。

岩殿山と対峙する菊花山山頂へ

背後に見える富士山を振り返りつつ登り切ったところが菊花山山頂で狭い山頂からの展望は360度の大展望です。

障壁のように市街を取り囲む南大菩薩連嶺から雁ヶ腹摺山と檜の木尾根、岩稜越しの富士山が素晴らしい。

アルペント的な山頂に別れを告げ雜木と岩場の入り混じった稜線を慎重に下り、最低鞍部から登り返すと九鬼山への縦走路と合流、ここが沢井沢の頭直下です。

導標に従い左に折れて御前山へ、赤松混じりの縦走路が食害よけの植林地に変わると西面の展望が開け菊花山を見下ろすようになります。又、岩殿山の右奥には雁ヶ腹摺山と長大な檜の木尾根が良く見えます。

御前山山頂へ

八五郎岩の基部を回り込み、駒橋への下山路を一旦通過して御前山山頂へ、切れ落ちた懸崖から吹き上げる心地良い風に当たりながら眺める道志山塊の山並みと富士山に時の刻みを忘れそうです。

厄王権現にお参りを

暫く登ると突然視界が開け足下に桂川の大きなうねりと富士急線、富士みちの家並みのはるか奥、遮る物もない雄大な富士が絶景です。この場所は富士急線の電車と富士山を組み合わせた写真家の隠れた撮影ポイントのようです。

大月駅を出発

大月市街を挟み圧倒的な岩殿山と対峙する菊花山（六四三m）は、貧乏山と呼ばれる不遇な山ですが静かな山歩きを好むハイカーに意外と人気があります。

今回は無辺寺上手の古峰神社から富士山の眺めの良い西尾根を登り菊花山頂から沢井沢の頭を経由して厄王山迄の縦走です。古峰神社脇の菊花山を示す導標に従い小さな鉄塔の下を通り雜木混じりの山腹をやや西向きに登ります。

富士みちの展望台

下山は駒橋分岐まで戻り植林地を急降下、途中厄王権現手前の岩場の通過はトラロープや岩角を利用して慎重に下りましょ。厄王権現のお参りも兼ねた大月駅起点の一一周3時間半程度の山歩きです。

素晴らしい大月の山々（十五）

* 岩殿山～稚児落とし *



大岩壁を山頂へ

登るに従い頭上を圧する大岩壁に驚嘆し、コンクリ道と手すりの整備された急な史跡道を登り切ると山頂です。

大月市街が真下に見え桂川のうねりに沿った家並みと南岸に連続する穩やかな山々、西方にはピラミダルな滝子山と南大菩薩の障壁、それらを圧する富士の眺めが素晴らしい。

山頂の史跡巡りの後登ってきた道を戻り筑坂峠分岐へ、ここからは普通の山道でコナラ、アカマツの中を急降下。

春待つ岩殿の富士

大月駅を出発

今回の山歩きは大月のシンボル、古里の山、岩殿山です。大月市街のみならず中央線の車窓から移りゆく穩やかな山々が一変、周囲を圧する巨大な岩壁を見せる岩殿山には誰しも一度は登り、又は関心のある山ではないでしょうか。

コースは岩殿山から兜岩と稚児落しを経由して浅利に下りますが、途中岩場と鎖場があり一寸スリルのある市民ハイク的なコースです。

丸山公園へ

歩き出しは駐車場上の丸山公園への散歩道、陽だまりの砂利道を富士山眺めながらのんびりと登ります。丸山公園では春は桜と富士、秋は紅葉と富士、季節を問わず常に富士山とのコラボレーションが楽しめます。

稚児落としの大岩壁

ここからはミズナラの林の中を一旦下り、登り返すと左手に稚児落しの大岩壁が見えてきます。その縁に立ち馬蹄形の岩壁の最高点から一気に切れ落ちる姿は迫力があります。

最高点の手前にあるトヅラ峠への分岐を左にとり直下に見える浅利を目指して岩場を急降下、下りきると浅利の民家脇です。ここから大月駅までのんびりと歩く一周3時間程度の山歩きです。

素晴らしい大月の山々（十六）

* セイメイバン～大岱山 *



大岱山の白ブナの巨木

急登を登り切ると
宮地山分岐です。
顯著な山頂を持たない
大岱山はこの付近
から2重山稜の複雜な地形となり
ナやミズナラの自然
林が広がり最高点
(標高一一七九m)
からは南面に裾野を
大きく広げた富士山
が絶景です。

西奥山の民宿脇をスタート

セイメイバン、これ程不思議なロマンに満ちた山名を持つた山は珍しい。名前の由来はともかく今回は西奥山から桜沢峠に登りセイメイバンから大岱山を縦走して金山峠に至る西奥山を一周するコースです。

スタートは民宿森屋荘手前の林道始点で、橋を渡り暫く登ると左手にセイメイバンへの導標があり尾根に取り付けます。植林地と雑木の入り混じった尾根を登り切ると桜沢峠に到着、以外に明るく広々した峠で岩殿山からの縦走路に合流します。

セイメイバンから大岱山へ

峠からはナラの木に囲まれた気持ちの良い尾根道で、積もつた落ち葉を踏み分けながら樹間越しに見る朝光の百蔵山や倉岳が素晴らしい。道は送電鉄塔に沿って小さな急登を繰り返し、登り切ると東面にブナ、カエデ、コナラの林立するセイメイバン山頂で、樹間越しに宮地山や権現山が良く見えます。セイメイバンからは馬の背のような広々した尾根を稜線通りに登り、階段のある

樹齢三百年の白ブナ

金山峠側には樹齢三百年の白ブナやミズナラの巨木があり今も尚成長を続ける生命力に驚嘆します。東西に続く二つの山稜に挟まれた窪地には腐らずに白骨化した無数の倒木が横たわり人手の全く入らない奥深さに時の流れを感じます。

下山路は導標に従い一旦クランク状に折れ、尾根の北側斜面を下ります。途中金山鉱泉に下る尾根コースを分岐して金山峠に向かいますが下るに従い雁ヶ腹摺山と姥子山が徐々に大きく、高く見えます。

金山峠から金山鉱泉へ

金山峠からは雁ヶ腹摺山、姥子山への古の登山路である百間干場への道を見送り真下の沢床を目指して植林地を急降下、シリップしないように慎重に下り、沢歩きも浮き石や濡れた岩に充分注意して下さい。沢床から高巻くように登り上げると林道に出ます。

西奥山最奥の金山鉱泉を通り過ぎ、歩いたセイメイバンの稜線を眺めつつ下る一周5時間程度の山歩きです。

素晴らしい大月の山々（十七）

* 滝子山 *



滝子山山頂の富士

覆うナラやカエデ、ブナの樹間越しに鶴ガ鳥屋山を抱いた富士山や南アルプス赤石岳が見えてくると滝子沢右股の源流をトラバース、雑木の密生した斜面を登り切ると南面が開けた桧平です。初狩から登るルートと合流するこの場所は雑木の中を風が吹き抜ける気持ちの良い場所です。

素晴らしい自然林の中を登る

登山道は尾根通しに上る男坂と山腹を巻く女坂に分かれますが特に男坂コースの北斜面に広がるブナ混じりの素晴らしい自然林が急な登りを忘れさせます。

急登を終えると女坂コースと合流し更に一段登ると三角点ピーク、途中鎮西ヶ池への道を分けようやく最高点に到着。

滝子沢に向かって深く切れ落ちた足下に笹子の町並みとその向こうに三つ峠を抱いた富士山、遠く南アルプスや八ヶ岳、奥秩父等素晴らしい展望です。下山は東西に細長い頂稜を西に下り、“岩場危険”的看板を見て真下に伸びる寂尚尾根に向かいいます。

岩尾根の下りに注意を

浜立尾根との分岐を過ぎると岩尾根の下りとなり三点支持を守りつつ時にはクライムダウンを行う緊張する下りです。

一般の人にはお勧めできない岩尾根を一時間程下るとようやく傾斜が緩くなりブナ、ナラの密生する広い尾根歩きになります。

尾根の末端にブナの巨木

桧平へ

やや狭まつた尾根に取り付くと急な登りとなりトロープの張つてある岩場や黒曜石の散乱する急斜面を通過、急な尾根を

から暫くは道作り後の丸太の階段や土留めのある斜面を登ります。

途中、隆々たるコブを木肌につけた仁王様のようなブナの巨樹に感嘆しつつ大鹿林道に下り付き、林道を横断すると桜公園を経て笹子駅へ、林道を左に折れると出発点に戻る一周六時間程の山歩きです。

素晴らしい大月の山々（十八）

* 笹子雁ヶ腹摺山～お坊山 *

笹子雁ヶ腹摺山山頂へ



笹子雁ヶ腹摺山からの富士

電波反射板脇を通過し山頂（二三五八m）に到着。東西に長い山頂からは笹子周縁の山々を前景に圧倒的な富士山、西に盆地を隔てた南アルプスの白き峰、北側に続く米沢山からお坊山の稜線、東は笹子から大月に続く街道筋等、素晴らしい展望です。

分水嶺を縦走

山頂からは分水嶺上の稜線を米沢山に向かいますがやや狭まつたブナ混じりの稜線は左右に急峻に落ち込み大和側から吹き上げる風に冷たさを感じる稜線です。小さなピークを3つばかり超えると鎖場のある岩稜に出ますが傾斜が緩く容易に通過でき、登り切つたところが米沢山山頂です。

ブナやミズナラに囲まれた隙間から南アルプスや富士山、通過した笹子雁ヶ腹摺山からの尾根筋が良く見えます。米沢山からトクモリのピークを通過するとお坊山西峰、途中大鹿峰への道を分けると東峰に到着。

お坊山東斜面は素晴らしい自然林

山頂からは素晴らしい自然林の中を積もった枯葉を踏み分ける音をたてながらつづら折りに下ります。不明瞭ながら尾根通しに下ると立派な山頂標識の立つ棚洞山、入道山を通過、途中笹子側の斜面に無残に焼け残つたアカマツの中に、春先三つ葉ツツジが綺麗に花を付けます。

清流の絶えない吉久保

下りきつて吉久保から笹子駅への帰り道、いつもながら清流の絶えない道路脇の側溝で顔を洗う一周8時間程の山歩きです。道は一旦平坦になるも垣間見るピラミッド型の山頂部が一層高くなり最後の急登。道は一旦平坦になるも垣間見るピラミッド型の山頂部が一層高くなり最後の急登。

新田から登山道へ

大月と国中をつなぐ笹子トンネルはJR、中央道、国道共に笹子雁ヶ腹摺山から米沢山に至る稜線の真下を通過していますが、今回笹子駅を起点にして新田から笹子雁ヶ腹摺山に登り、米沢山を経由してお坊山西峰へ、更に東峰から破線コース（一般的でないコース）の棚洞山を下り吉久保経由で笹子駅に戻るコースをご紹介します。

新田から登山道へ

笹子駅を出発し笹子峠入口の新中橋を渡つた右手導標が登山道入口です。杉林の中の登りからスタート、2個目の鉄塔あたりから尾根状になり南側雜木の樹間越しに女子を取り巻く山稜が良く見えるようになります。

素晴らしい大月の山々（十九）

* 宮地山～セイメイバン *



宮地山の新緑

が素晴らしい。登るに従い道はつづら折りから尾根の直登に変わりやがて立木につかる程の傾斜になつて登り切つたところが山の神。石碑と馬の人形に古の信仰を感じつつ思わず登山の無事を祈ります。

宮地山山頂へ

道はようやく平坦になり、ほぼ直角に曲がつて雑木林の中を落ち葉を踏みしめて登り切ると宮地山山頂です。雑木に囲まれた平坦な山頂に展望は殆ど無く僅か南側樹間に越しに道志山塊や富士山が遠望出来ます。山頂に佇むと雑木林特有の多様な新緑が素晴らしい、欠けた三角点を見送り平坦な頂稜を暫く進むと道は急降下、北側は植林地南は相変わらずの雑木林です。

静かな稜線歩き

行き交う人の全くいない静かな稜線、小さなアップダウンを2～3回繰り返した後、広い鞍部に出ます。若干道が不鮮明になりますがおおむね尾根の南側を通過します。途中葉を付けたまま朽ちかけた樅の大木を見送り鉄塔が現れると大岱山への最後の登りです。

食害防止の施された植林地脇を登り切ると縦走路と合流、右は大岱山ですが左に折れてセイメイバンに向かいます。

落ち葉を分けてセイメイバンへ

新緑の中、雑木林に続く落ち葉深い一筋の登山道、徐々に高度を下げ一旦小さなピークを登り切るとセイメイバン山頂です。

時折現れる植林地と雑木林のミックスした尾根道を更に下ると桜沢峠、正面に見上げる高の丸への縦走路を見送つて右に折れ西奥山へ下山、遅能戸からバスで大月に戻る歩程7時間程の山歩きです。

素晴らしい新緑の尾根道

用沢からの登り道と合流する導標を過ぎるとミズナラ、カエデ、アセビの混じる雑木林で春先の燃えるような新緑と秋の紅葉

素晴らしい大月の山々（二十）

* 高の丸～笹平～稚児落とし *

高の丸山頂へ

春先小さなリンドウ咲く、ゆつたりとした尾根を登り切ると高の丸山頂で展望はなく立木にくぐられた手作りの山頂標識と繁茂するアセビの深緑に静けさを感じます。

山頂からの下りは鉄塔を過ぎた辺りから急坂になり下りきったところが西奥山林道のトズラ峠、ここから眺める百蔵山は鋭峰で隣に並ぶ扇山と併せ広くたおやかな南面の山容とは一寸異なります。林道と駐車場を横切り導標の建つ対岸の植林地に入り笹平へ登り返します。



ミズキ咲くトズラ峠から百蔵山と扇山

富士景勝地の笹平

登るに従い若干岩場混じりの瘦せ尾根となり南側が切れ落ちた岩場を通過するようになります。樹林帯から解放された尾根上からは花咲山の三角錐の奥に高川山、その彼方に大きな富士が控える素晴らしい眺めです。

これから辿るハイカーの休憩する稚児落しを見下ろし九鬼山から道志山塊の山々が一望できる尾根で、傍らに設置された富士景勝の地を示す標識の通り何時までも眺めていたくなる場所です。

稚児落としへ

スタートは西奥山森屋荘前の林道で、林道を暫く歩きセイメイバンへの導標に導かれて登山道に入ります。植林地から雑木に変わった気持ちの良い尾根を登り切ると明るく開けた桜沢峠、セイメイバンへの道と別れ右に折れます。

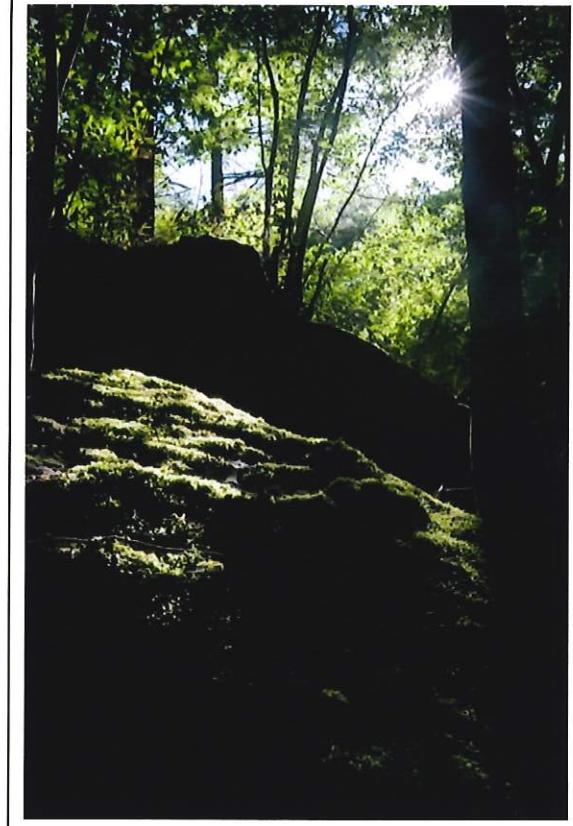
幅の広い雑木林の尾根は新緑と紅葉が実に綺麗で、余り人の通らない尾根道は深い落ち葉に覆われて踏跡を隠します。

道は鉄塔のある最高点を通過して急降下、笹平の山頂からは雑木と赤松に囲まれた道を下りきると岩殿山からの縦走路に合流し右に折れて稚児落しへ、自然の偉大さに驚異する岩壁の縁は又、富士を始め素晴らしい展望台で振り返るとさつき通過した笹平が大きく、高く見えます。

ここから岩壁の西側岩稜を慎重に下り、浅利経由で大月駅に至る四時間程の山歩きです。

素晴らしき大月の山々（二十一）

* 湯ノ沢源流～白谷ノ丸～大峰 *



湯ノ沢源流の木漏れ日

原流域になります。

朝の斜光線が緑の木漏れ日となつてみずみずしい苔に写し出す光と影、カジカガエルの大合唱とホトトギスの鳴き声、朽ちかけた倒木に座ると自然の息吹を感じる素晴らしい源流です。

道は林を抜けて湯ノ沢峠直下の藪こぎ、一汗かくとひよっこりと見

慣れた湯ノ沢峠に到着、道を右にとり熊笹が綺麗に伐採された白谷ノ丸へ、標高二千メートルに近い稜風は涼しく背後に見える富士を振り返りつつ登り切ると白谷ノ丸山頂に到着。

夏雲湧く白谷の草原

広くたおやかな草原は一面緑のカーペットで夏雲と良く似合います。白谷ノ丸から黒岳へ、紅葉の素晴らしい黒岳の森林はこの時期濃緑の葉を枝垂れる程付け、足下に密生するシダと合わせ全てを緑色に包み込みます。

山頂部のみ伐採された黒岳山頂を通過し大峠下山口から赤岩の尾根を急降下、黒木に覆われた下山道は倒木とその上を覆う苔の緑がこの季節実に鮮やかです。

林道を歩く

カジカガエルの大合唱

湯ノ沢峠入口よりキイチゴの多い林道を終点まで登り導標に導かれ右手藪道に入り、カラマツと雑木の入り混じった登山道を朝露に濡れながら登ると小さな沢にかかる幅広の古い橋、往時をしのぶ立派な作りです。

キイチゴを摘みながら

湯ノ沢峠入口よりキイチゴの多い林道を終点まで登り導標に導かれ右手藪道に入り、カラマツと雑木の入り混じった登山道を朝露に濡れながら登ると小さな沢にかかる幅広の古い橋、往時をしのぶ立派な作りです。

垣間見る雁ヶ腹摺山と檜の木尾根が除々に大きくなる頃大峠に到着、ここから普段車で通過する林道を周囲の風景を眺めながらのんびりと湯ノ沢峠入口迄歩く一

周六時間程の山歩きです。

この辺りから右手白谷ノ丸山腹側に苔むした大岩が堆積し、その隙間に再生したコナラやブナ、カエデが林立する素晴らしい

素晴らしい大月の山々（二十一）

* 花咲山 *

木林の尾根へ、入山者の少ない山道に横たわる朽ちた赤松と落ち葉を踏みしめつつ登ると馬の背状の大岩に出ます。

大岩からの展望が素晴らしい

展望は間明野の小さな家並みの上に続く南大菩薩の山々、三つ峠から高川山とその背後に僅かに見える富士山が素晴らしい。

馬の背を過ぎると雜木の中、立ちはだかる岩を乗り越えて登り切ると七一七mのピークです。

ここから樹間越しに見る花咲山は最低鞍部を隔て更に高く大きく見えます。道は一旦急降下し鞍部からの登り返しは右下にゴルフ場とむすび山の稜線、左に南大菩薩の山々を垣間見る快適な尾根歩きとなり登り切ったところが花咲山山頂です。

山頂に小さな手作り標識が

山頂の展望は無く小さな祠と地元クラブの設置した手作り標識に人と山との交わりを感じます。花咲山から若干踏跡の少なくなったトラロープ混じりの山道を東に急降下、下りきると花咲側に明瞭な踏跡を残す花咲峠、少し登り返してサス平に到着、山頂に残る焼けた枯れ木は落雷の名残でしょうか。

最後は藪こぎ

振り返る花咲山に別れを告げ若干藪の多くなった浅利への下山路は途中大月駅への導標を確認して山の神の祠まで一気に下ります。

ここから足下の小さな階段状の道をも隠す藪道、すぐ真下に見える中央道の側道めがけて最後の藪こぎ、飛び出した側道から浅利みちを大月駅まで約4時間程の山歩きです。

大月西小前をスタート

大月市街の西、大月橋付近よりゴルフ場の背後に一寸気になる山塊が見えます。小さなピークを3つ程連ねた山で花咲山と言い標高は七六一mで梅久保山とも呼ばれるこの山塊の縦走が今回のコースです。

大月駅より富士急バス、ハマイバ行きで西小前下車、郵便局の向かい側角にある導標に導かれ西小裏通りを進み小さな橋を渡りきると正面民家前に導標がありここから山道に入ります。

門扉を開けると桔梗が咲いていた

電波塔を通り過ぎると林道を横断、登るに従い徐々に真木の家並みが低くなり背後の高川山や三つ峠が大きくなりります。

道はネットで囲まれた広くて見晴らしの良い植林地の中を門扉を開閉して通過、閉めた後しっかりとロープを結び植林から離れます。



花咲山山頂の手作り標識

素晴らしい大月の山々（二十三）

* 鋸尾根と麻生山 *



三ツ森北峰の大展望

概ね尾根の南側をつづら折り、時には直上気味に徐々に傾斜を増しながら続きます。一旦平坦になつたところに導標があり更に登ると鋸尾根の核心部、最初のピークは南斜面をトラバース、次第に狭くなる岩稜混じりの尾根を時には三点支持の体勢で通過します。

三ツ森北峰の大展望

杉平入り口バス停をスタート

今回ご紹介する麻生山（一二六八m）

は大月と上野原を分ける稜線上の山で、岩尾根に咲くイワカガミの花と富士山の絶景等、ややハードなコースですが静かで素晴らしい山歩きが楽しめる数少ない山です。富士急バス杉平入口バス停に設置してある“鋸尾根、北峰”の導標を見送り眼下に流れれる葛野川の対岸山腹を斜上するガードレールを目指します。小姓橋を渡り道なりに先程見えたガードレールに沿つて登ると民家の庭先に導標がありここが登山道入口です。畠道を一寸登ると左手奥に導標があり竹林に入ります。

鋸尾根を登る

直ぐにやや踏跡の薄い雑木林になり緑濃いトンネルをゆつたりと登りますが道は

櫛の木茂る急な稜線が徐々に広くなり足下の笹を分けるようになると上野原との境界縦走路に到着、導標を見て右に折れると突然目の前が明るく開け三ツ森北峰に到着です。権現山から百蔵山、雁が腹から奥秩父に至る山屏風の中央に雄大な富士山、絶景です。山頂に立つ櫛の木になぜか設置された大きな鏡を見送り麻生山に向け急降下、三ツ森と呼ばれる小さなピークは次第に岩稜となりイワカガミの花が咲く素晴らしい稜線です。

麻生山山頂と三角点ピーク

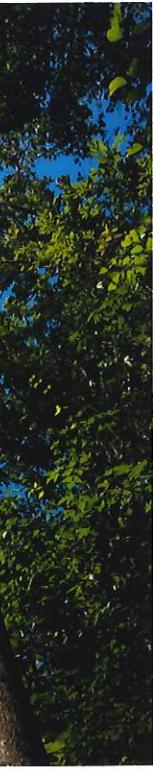
尾根は次第に広くなり下りきると尾名手峠、右手には駒宮に至る踏跡がはつきりとついています。ここを登り切ると麻生山山頂で富士山が良く見えますが隣の三角点ピークは雑木に囲まれて展望はありません。

長尾根を下り駒宮へ

三角点ピークを過ぎ5分程で右手駒宮への下山路に入ります。やや踏跡の薄い尾根を急降下すると尾名手峠からの道と合流、長尾根と呼ばれる雑木に囲まれた尾根を下り途中T字路を右手駒宮にとり富岡バス停まで一周6時間程の山歩きです。

素晴らしい大月の山々（二十四）

* 権現山・扇山 *



権現山のブナ

徐々に傾斜が増しこの辺りから山桜、コナラ、カエデの入り混じった気持ちの良い雑木林になります。

途中、まるで電柱のように空に向かって真っ直ぐに伸びたブナの木を眺め、傾斜の増した岩混じりの急な尾根を登り詰めたところが麻生山の分岐、此処を右手に向かい最後の登りで権現山山頂です。

浅川バス停を出発

大月と上野原の境界に位置する権現山（一三一二m）は山頂が上野原の領域になりますが多くの登山者が鳥沢や浅川から入山します。今回浅川から浅川峠へ、峠から権現山を往復し更に扇山へ登り返して梨の木平に下り鳥沢駅まで歩くコースです。スタートは富士急バス浅川バス停、終点で降り片隅に建つ浅川峠への導標を見て林道に入ります。雑草混じりの砂利道を二十分程度歩くと終点でマイカーも此処まで入れます。

権現山から麻生山に至る稜線を左手に見送り、林道終点からやや踏跡の薄い登山道に入り雑木混じりの植林地をつづら折りに登ります。

浅川峠から権現山へ

展望は北に三頭山の大きな山容とその背後に霞む雲取から笠取に至る奥秩父の主稜線、南西には雑木越しの富士山が素晴らしい。休日、上野原方面からの入山と合わせ、以外と登山者の絶えない山頂を後に浅川峠に戻ります。急な登りも下りは早く、損した気分になる程短時間で峠に着きます。

扇山を目指す

ここから扇山に向かい最初は踏跡の薄い平坦な藪道、抜けると傾斜の緩い雑木林の中、積もった落ち葉を踏みしめて徐々に傾斜は増し、ハイカーの多い南側とは違い奥深さを感じる山道を登り切ると扇山山頂です。大勢のハイカーが休憩する広い山頂から素晴らしい展望を満喫した後、大久保のコルから梨の木平に向けて下山、途中杉林の中の水場で顔を洗い乾いた喉を潤す気持良さ、午後の斜光を浴びながら梨の木平から鳥沢駅まで下る六時間程の山歩きです。

道がやや平坦になり登り切ったところが浅川峠、棚頭に下る古き道跡に歴史を感じる峠は権現と扇山の接点、傍らに立つ導標を見て権現山に向かいます。雑木林と桧林が交差する展望のない緩やかな尾根道を登ると

素晴らしい大月の山々（二十五）

* 大峰～雁ヶ腹摺山～姥子山一周 *



姥子山のリンドウの花

わり途中白樺平への道を分けて林道に降り立ちます。ここはすでに姥子山の領域、林道を横断し一旦下つてから登り返すと西峰です、途中富士の眺めの素晴らしい展望地には夏にリンドウ、初夏の木陰にイワカガミの花が咲きます。

西峰から東峰へ

道は一旦キレット状を下り再び岩場を登り返すと姥子山東峰山頂です。小さな岩峰状の山頂は南側が切れ落ち三六〇度の大展望、東は権現山から桂川筋の谷と山々、南にセイメイベンを前景に丹沢から道志の山、西は吹切尾根の向こうに滝子山に至る南大菩薩の障壁と残雪眩しい富士、素晴らしい展望です。

奈良子林道を歩く

北側に聳える雁ヶ腹の大きな根張りに別れを告げ林道まで戻ります。林道を西に向かい暫くすると金山峠への下山路と白樺平の分かれ道を通過、目指す吹切尾根の山腹に延々と続くガードレールが見えます。大雨で流れた花崗岩の砂地に残る小動物の足跡を追い時折樹間越しの富士を眺めながら、小さな沢を横切って野脇ノ峰を回り込むと対岸に小金沢林道が見えようやく奈良子林道の終点です。

大峰に戻る

普段車で通過する車道をたっぷりと時間をかけ、大きくなおやかな雁ヶ腹摺山と周囲の景色とのコラボを眺めると今まで見えたこともない新鮮さを感じます。普段見向きもない車道をのんびりと大峰に戻る一周7時間程の山歩きです。

雁ヶ腹摺山から姥子山へ

山頂から道標に従い姥子山へ向かいます。苔むした倒木残る急な下り道は樅の木の大木から次第にダケカンバの薄緑へと変

紫の花が目に染みる、樹間越しに見える真白き富士の峰と春霞む道志の山並み、山頂迄の山道は素晴らしい展望となります。

雁ヶ腹摺山から姥子山へ

大峰から雁ヶ腹摺山へ

真木、小金沢林道のゲートの閉まる冬季を除き、雁ヶ腹や南大菩薩の登山起点となる大峰、今回はその大峰を起点にして雁ヶ腹摺山～姥子山～奈良子林道を経て大峰に戻る一周コースです。春先、登山者や写真家の絶えない大峰からミズナラの新緑香る林間を雁ヶ腹摺山頂に向かう、冷たく清らかな流れの水場で喉を潤し一登りするとダケカンバの薄緑とトウゴクミツバツツジの薄

素晴らしき大月の山々（二十六）

* 積雪期の焼山沢～ハマイバ丸 *



雪後の大谷ヶ丸

覆われた湯ノ沢のお花畠はラツセルと鹿よけの門扉の開閉に思いの外時間がかかりますが風の通り道となる雪面に刻まれたシユカブラと南アルプスの白き連なりが素晴らしい。お花畠を過ぎるとトレースの残る高い丘から大蔵高丸の山腹をトラバース、滑りやすい樹林帯の中をつづら折りに登り切ると大蔵高丸の山頂です。積雪期の頂稜は別世界、クマザサは深雪に隠れ南側樹林は一面の霧氷、その向こうにブリザードに荒れる厳しき富士、盆地を隔てた南アルプスは北の甲斐駒から南の聖岳まで素晴らしい眺めです。

ハマイバ丸を往復

大蔵高丸からハマイバ丸を目指して霧氷の中に突入、垂れ下がった木々の枝が体に触れるたびに飛散する霧氷、ありふれたドライフラワーに付いた霧氷の花、逆光に煌めく木々の氷花、ハマイバ丸迄の稜線は素晴らしい霧氷の世界に一変します。樹林と枯れ野の霧氷を交互に超えるとハマイバ丸山頂に到着、少し下つて東側斜面に出ると大谷ヶ丸を前景に富士の眺めが素晴らしい。

眼下には大月から都心に続く街道筋、晴れた早朝には光る東京湾が遠望出来ます。ここ迄トレイスがあると5時間、トレイスがないと避難小屋泊まりとなる冬山装備と体力が必要なコースです。

冬期の沢にはご注意を

ここから沢沿いに徐々に深くなる雪道をラツセルしながら登り詰めると湯ノ沢峠の避難小屋です。見知らぬ雪山愛好家が、夜間マイナス十度にもなる小屋でラジウスを囲み山の話に没頭する、営業山小屋にはない人のふれあいが生まれる山小屋です。

雪原をラツセルして大蔵高丸へ

雪山の冷気をめいっぱい吸い込み深雪に

特に焼山沢沿いの登山道は氷結した沢の横断や斜面のトラバース等、気の抜けないルートです。又、林道のアスファルトも日陰では薄氷に覆われますので呉々もアイゼンなど冬山装備に怠りなきよう注意が必要なコースです。

素晴らしい大月の山々（二十七）

* 初鹿野～大鹿峠～滝子山～初狩 *

曲沢峠から大鹿川へ

ここからは春の新緑、秋の紅葉と素晴らしい樹林帯の道となり大鹿山を乗つ越すと景德院からの道と合流、更に下ると曲沢峠です。ここから尾根通しの道と別れ道標の示す笹子駅側に下ります。初夏、色鮮やかに咲くシモツケソウやキイチゴの赤い実を摘みながら沢床迄下り笹子道と別れ滝子山への登りとなります。



大鹿川のシモツケソウ

鎮西池から滝子山へ

途中朽ちた小屋横を通り過ぎ、大きな浜立尾根を右に見て防火帯を登り切ると大谷が丸分岐、すぐ上が小さな鎮西池と白縫神社の祠、丸太作りの鳥居の前に佇むと遙かな歴史を感じる靈場のような場所です。これから目の前の斜面を登り詰めると初狩からの道と合流、右へ登つて滝子山山頂です。

滝子山から桧平へ

山頂からは真下に笹子の谷筋を見下ろし本社ケ丸の稜線の向こうの富士山、西に南アルプスから八ヶ岳まで絶景です。ひとしきり360度の眺望を楽しんだ後初狩まで下ります。新緑、紅葉の素晴らしいブナ混じりの男坂、女坂の樹林帯を下り桧平へ、南に開いた窓のような素晴らしい景色に別れを告げ尾根道をひたすら下ります。

藤沢を経て初狩駅に下る

やがて植林地のつづら折りとなり水場に到着、冷たい水で喉を潤し更に下るとようやく林道に到着、ここから藤沢を経由して初狩駅まで9時間程の健脚向きのコースです。

南大菩薩連嶺において郡内と国中を結ぶ古き峠道が幾つかありますが、今回は静かな山歩きの楽しめる田野から大鹿峠を通つて滝子山へ登り初狩に下るコースをご紹介します。一駆ごとに登山者の降りる早朝の電車で甲斐大和下車、足慣らしに歩いた景德院山門で体の温もりを感じつつ車道を右にとり大きくカーブした左手民家の壁に大鹿峠への道標を見ます。

初鹿野駅を出発

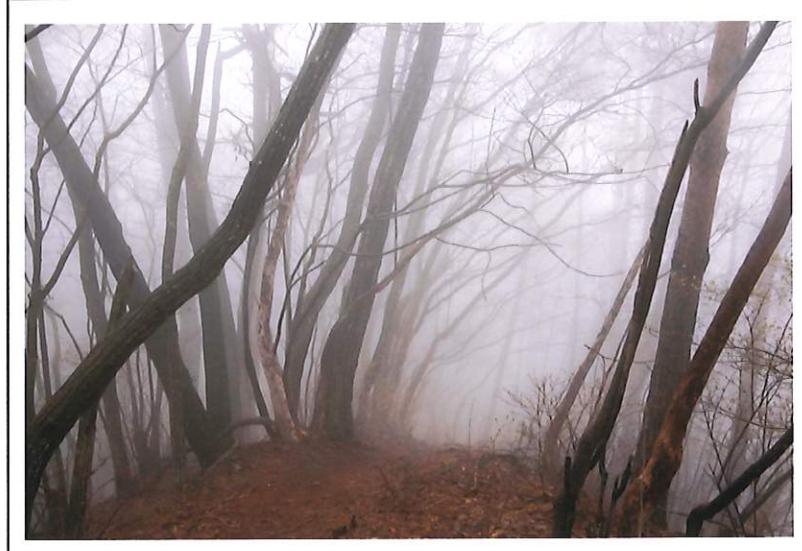
田野から大鹿峠へ
庭先の小道を通り害獸よけのゲートを開閉して氷川神社へ、うつそうとした杉林の中のつづら折りを暫く登り支尾根上に出ます。ここから雑木の中、時折南アルプスを垣間見て鉄塔を3基程通過すると稜線上の縦走路と合流、大鹿峠は南に少し下りますが道を左手にとり大鹿山への登りです。

素晴らしい晴らしき大月の山々（二十八）

* 百蔵山西尾根と浄水場 *

数体ある不動尊像に登山の安全を祈願し更に登ると小さな祠があり二つ目の祠を過ぎると急な登りになります。

西尾根から百蔵山頂へ



霧の西尾根

踏跡の薄い急登を立木につかりながら登り切って標識の立つ西尾根に出ます。傾斜の緩くなつた尾根は右に桧やアカマツ、左はナラ、カエデの雜木林の配列となりやがて左手から伸びる支尾根と合流します。ここを右に折れるとやや藪混じりの稜線通しの道は徐々に傾斜を増し、時折苔の付いたアカマツの根元に茂るアセビやミズナラの木立に囲まれる素晴らしい尾根道となります。左手コタラ沢から吹き上げる稜風に心地よさを感じながら登り切ると百蔵山の西の肩になる大同山山頂です。ここから若干下ると右手下和田からのメインルートと合流、傾斜の緩い道を登り切ると百蔵山山頂です。

絶景の百蔵山頂から浄水場へ下る

近年、百蔵山を目指す登山者が葛野から西尾根を登り、山頂経由で猿橋駅に戻るコースを歩く人が増えているようですが今回はこのコースをご紹介します。早朝、猿橋駅にて身支度を整え富士急バスを利用し葛野福泉寺前にて下車、参道に入り寺前を左に折れ道なりに車道を登り詰めると百蔵山登山道の標識があります。

福泉寺前バス停を出発

ここから植林地の中を登りますが時折開ける背後には岩殿山からセイメイバンに至る東奥山方面の眺めが素晴らしい、特にピラミッド型の岩殿山が圧巻です。昔懐かしい水晶場への標識を過ぎ傾斜を増す樅の木混じりの植林地、途中道を塞ぐ大きな倒木を何本も超えて台地上の不動尊に到着、

ピラミッド型の岩殿山

四季を通じ登山者の絶えない山頂からは富士みちの最奥に聳える富士山、南側に連綿と繋がる道志山塊から西丹沢の山並み、そして足下にはこれから下る下和田から猿橋に至る町並み、まさに富嶽十二景に相応しい絶景です。

下山は平坦な山頂をやや扇山方面に向かい縦走路と別れて浄水場に下山します。雑木林の中の急な下山路はトラロープや立木につかまって慎重に下ります、樹間越しに見る富士山や左手扇山を眺めつつ傾斜が緩くなるとまもなく浄水場に到着、葛野から公衆トイレのある駐車場迄4時間程の山歩きです。

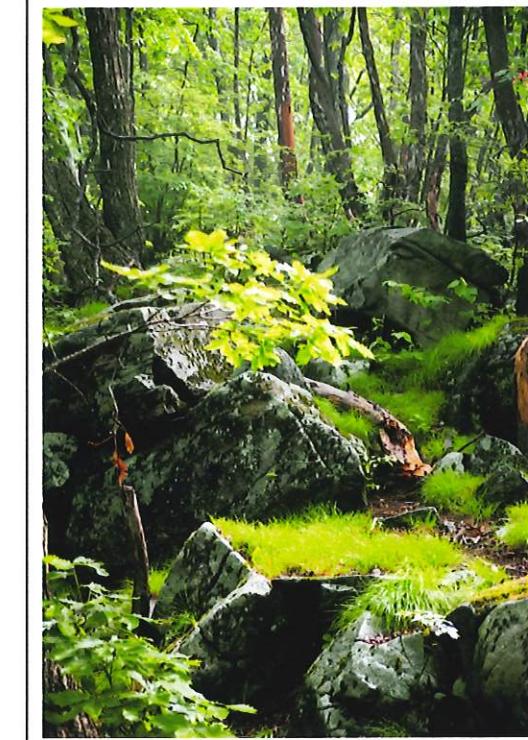
素晴らしき大月の山々（二十九）

* 笹子峠～笹子雁ヶ腹摺山 *

苔むす尾根道を

笹子雁ヶ腹摺山へ

登り切ると傾斜は緩くなり
尾根の東側を歩きます。



笹子峠からの尾根道

展望のない山道を暫く登る
と行く手にルートを示す赤
テープ、ここがトラバース
道と尾根路の分岐ですが左
手の尾根路に入ります。小
さなアップダウンの続く踏

跡の薄い尾根路は左手初鹿野側が切れ落ち
苔の生えた岩とヒメシャラの木混じりの多
様な雑木が続く素晴らしい尾根路です。登
るに従い樹間越しに笹子雁ヶ腹摺山の大き
なピークが近づいてくるとトラバース道と
合流し鉄塔の脇を通過、最後の急な尾根を
登り切ると笹子雁ヶ腹摺山山頂です。

帰りはトラバース道

東西に細長い山頂からは笹子峠から清八
峠に至る遠く鶴ヶ鳥屋山まで続き大沢山の
向こうの富士山が素晴らしい。富嶽十二景
に指定された景勝の地に相応しい眺めで
す。

ケヤキの大木を過ぎると旧笹子トンネ
ル、暗いトンネルの向こうに見える初鹿野
の光はメルヘンの入り口のようです。右手
広場の脇にある道標を見て山道に入るとす
ぐ上が峠、郡内と国中を結ぶ接点に歴史を
感ずる場所です。峠上の十字路は左に登る
とカヤノキビラの頭経由で清八峠へ、ここ
を右に折れトラロープの張られた急な道を
立木に捕まりながら登ります。

笹子峠に立つ

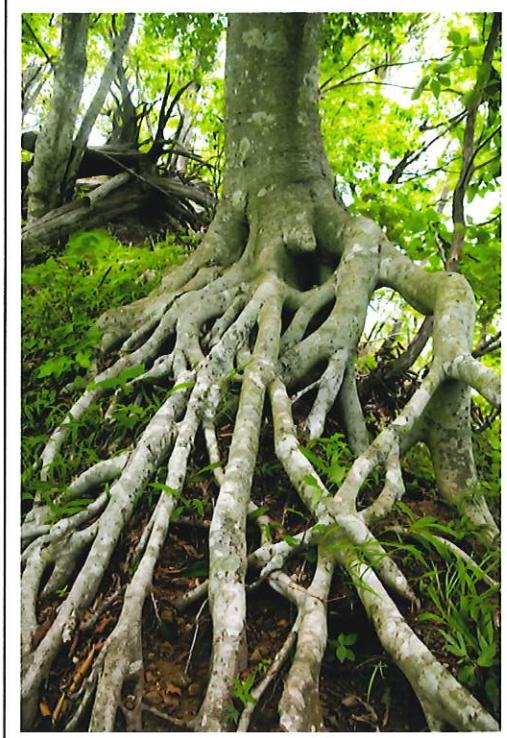
下山は山頂直下の鉄塔まで戻り少し下る
と尾根路との分岐ですが帰りはトラバース
道を下ります。途中かなり急傾斜な斜面を
横切りますがスリップしないように注意し
ます。

笹子峠から駐車場迄戻る往復四時間程の
山歩きです。帰り道駐車場下の矢立の杉に
立ち寄りその生命力を是非体感して下さ
い。

素晴らしき大月の山々（三十）

* 笹子峠～カヤノキビラの頭～大洞山 *

る風に昼寝でもしたくなる
場所です。



大洞山のブナの根張り

ここから平坦な尾根路を進むとベンチがあり直進する
と中尾根下山路、ここは右
に折れて桧の植林された藪
の多い尾根を一旦下り所々
露岩のある小さなピークを
通過、途中笹子主稜線上の
ボッコノ頭の右手に富士山
も見える楽しい尾根歩きと

駐車場から旧道に入る

二十九号で笹子峠を起点に笹子雁ヶ腹摺
山コースをご紹介しましたが、今回は峠を
南下し中尾根の頭、カヤノキビラの頭経由
で大洞山迄の往復コースをご紹介します。
出発は前回同様矢立の杉駐車場ですが峠下
まで旧甲州街道を歩きます。矢立の杉の身
代わり地蔵脇から旧道に入り杉林から雑木
に変わる小さな尾根上の一木道は明らかに
登山道と異なる旧街道の雰囲気を感じま
す。

笹子峠から中尾根の頭へ

峠下で林道と合流しトンネル上の旧笹子
峠へ、ここから道を左手カヤノキビラの頭
に向かいます。

大ダルミの底から一気に登り出す滑りや
すぐ急な轍道は笹子雁ヶ腹摺山方面のよう

な明るさのない単調な登りです。徐々に尾
根が狭くなり鹿に皮を剥がされたリョウブ
の木が目立つようになると中尾根の頭に到
着。南西の山腹が明るく開け目指すカヤノ
キビラノ頭が大きい。又、アセビとブナに

配置された東面の林床が素晴らしく吹き渡
る風に昼寝でもしたくなる
場所です。

大洞山山頂からUターン

傾斜の緩い尾根を登り切ると大洞山山
頂、ドーム上の山頂は周囲をミズナラに囲
まれてその落ち葉が何層にも積もり殆ど行
き交う人のいない静かな山頂です。人気の
無い山頂は鳥のさえずりと時折吹き抜ける
風に誘われた木の葉のざわめき以外、何も
ない奥深さを感じます。

長大な笹子主稜線はまだ続きますがここ
でUターン、南大菩薩や滝子山のピラミッド
を垣間見ながら笹子峠まで戻る往復6時
間ほどの山歩きです。

素晴らしい大月の山々（三十一）

* 米背負峠～大谷ヶ丸～曲沢峠 *

ですが登るにつれて西側甲府盆地から南アルプスの素晴らしい展望が開けます。

途中ゲートを左に見送り岬のような大きな尾根を回り込むと道が二分され左側の林道に入ります。長い林道に飽きた頃米背負峠への道標が建つ登山道入り口です。

ここから米背負沢に沿って沢床を登りますが林相が雑木からブナ、カエデの林に変わり複雑に起伏する山腹は下草もなく落ち葉の積もる気持ちの良い峠道です。



大谷ヶ丸への道

徐々に稜線が開け登り切ると米背負峠に到着、小広い峠は適度に空間を保つブナに覆われ自然の作り出した配置が素晴らしい。

左にハマイバ丸への道を見送り右手大谷ヶ丸に向かいますがこの登りも又ブナ、ミズナラの大木と足下に茂るスズタケの中を登る素晴らしい稜線です。山頂直下で滝子山への道を分けるとすぐ上が大谷ヶ丸山頂、展望のない山頂ですが丸いドーム上を吹き渡る風が気持ち良い。

曲沢峠から景德院へ

山頂からは滑りやすい急な下山道、下りきると大和側は雑木林笹子側は唐松林が続々樹間越しに滝子山や南アルプスを覗く快適な稜線歩きとなります。コンドウ丸の小さなピークを乗っ越すと曲沢峠、ここは稜線上の十字路ですが景德院に下る道標に従い雑木に覆われた尾根路を下ります。

桧林の中、コンクリの擁壁上を下りきると景德院の本堂脇に出て山門を通過、ここから龍門峡迄戻る一周八時間程の山歩きです。ここまで初めて米背負峠と甲斐大和駅の道標に出会います。ここから林道歩きへ

龍門峡駐車場を出発

コメシヨイ峠、南大菩薩ハマイバ丸の稜線が南に落ち込んだ鞍部に位置し、古き時代を想像させる峠には意外とファンが多い。今回初鹿野龍門峡駐車場を起点に大蔵沢を登り大谷ヶ丸、コンドウ丸を経由し駐車場に戻ります。

トイレのある駐車場を出発し日川渓谷レジャーセンター脇の大蔵橋を渡りきったゲートから林道に入ります。

登山道から林道、林道から登山道へ

暫く登ると山の神の小さな祠がありここで林道と別れ左側山道に入り小さな尾根を登ります。途中道は尾根道と分かれ南山腹を斜上し登り切ると天目からの林道に合流します。ここで初めて米背負峠と甲斐大和駅の道標に出会います。ここから林道歩きへ

素晴らしい大月の山々（三十二）

* 雁ヶ腹摺山～檜の木尾根～上和田 *

見晴らしの良い瘦尾根に出ますが雁ヶ腹摺山から姥子山、その左手に富士山が素晴らしい眺めです。



唐松立ちの尾根道

更に下りブナとミズナラの林を抜けると草原のように広がる背の低い笹とその中で点在する檜の木、その間を縫うように続く登山道、そのコラボの素晴らしい平坦な尾根道になります。時折垣間見る大きな鉄塔を目指して更に尾根を下り奈良子側を捲く立派な巡回路をやり過ごし、猿橋の町からも視認できる大鉄塔の真下を尾根通しに通過します。

檜の木林を下る

泣き坂の急登から大峰へ

奈良子側の斜面はほぼ唐松、小金沢側は雑木に別れ、尾根道はワイヤーの固定された岩場を下り小さなピークを更に大下りすると鍋底のような峠です。よく見ると奈良子側から小金沢側にうつすらと道型が残つており山里の歴史を感じるところです。

目の前に立ちはだかるは泣き坂の急登、その名通り直線的に登る尾根道を息を切らして登り切ると泣き坂の頭です。更にブナ、ミズナラに囲まれた緩やかなピークは古びた祠の建つ大峰山頂、後は下るに任せ西沢の頭に、ようやく東面が伐採され麻生山から権現山、扇山に至る素晴らしい眺めです。

水無山から上和田へ

伸びた藪を払いながら下ると雑木に囲まれた水無山山頂、ここから上和田への道標を見て大下り、急な下りに辟易する頃ようやく右手に見える上和田の家々、バス停までも歩く8時間程の山歩きです。

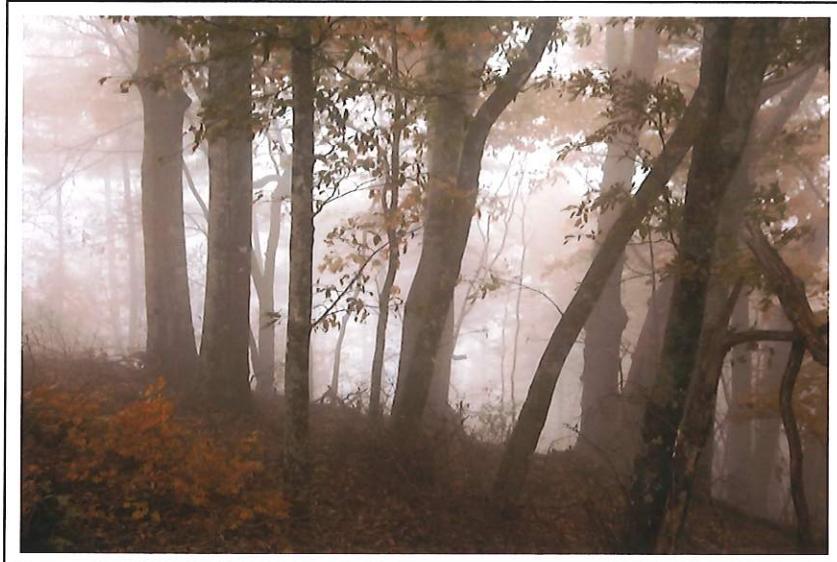
山頂から檜の木尾根に入る

通い慣れた大峰から雁ヶ腹摺山への道は何時歩いても素晴らしい富士山がお出迎え、人の絶えない山頂から踏跡の薄い北側原生林に一步踏み込むと苔が絨毯のように広がる斜面になりその中を下ります。

やや藪混じりの尾根道を下りきつて振り返るとピラミッド型の雁ヶ腹山頂が指呼の距離、道はダケカンバに囲まれた緩やかなアップダウンが続きシオジの森への分岐となる大樺ノ頭に到着、ここから急斜面を下り

素晴らしい大月の山々（三十三）

* 大沢山～ボツコの頭～中尾根～新田 *



ボツコの頭のブナ林

ますが道が急な岩稜になるとコイワカガミの大群落です。斜面に生える背の低い雜木の根元と岩棚を埋め尽くすコイワカガミは開花時期、この花を見るためにここ迄登つて来る登山者がいますが、秋その小さな葉を赤く紅葉させた一面の絨毯も又素晴らしい眺めです。

稜線は所々両側が切れ落ちたナイフリッジ状の岩稜となりブナやミズナラの巨木に囲まれた素晴らしい稜線です。縦走路は大沢山の最低鞍部から徐々に登り返しピークを二つばかり超えるとボツコの頭。ここも一面ブナやカエデ、ミズナラに覆われ秋、彩色豊かな落ち葉が深く積もるドーム状の山頂で 笹子山稜の最深部の霧囲気を漂わせます。

笹子稻荷神社を出発

笹子を取り囲む山々の中で最も訪れる人が少なく静かな山歩きが楽しめるコースがあります。大沢山、ボツコの頭、カヤノキビラの頭を経由して中尾根を下るコースで、特に大沢山の北尾根と中尾根のルートは道標もなく登山地図にもない一寸ハーハードなコースです。スタートは 笹子追分の稻荷神社、本殿右の杉の大木の脇を通りいきなり尾根の急登、本年六月に紹介したこのルートは長い尾根をひたすら登り大沢山の山頂へ直接突き上げるルートですが特に西側斜面に広がる雜木林が紅葉する秋は素晴らしい尾根道です。

大沢山からボツコノ頭へ

急な尾根を登り切ると大沢山山頂で切り開きから眺める富士山が素晴らしい。山頂から縦走路を西に下りボツコノ頭に向かい

摺針峠から大洞山へ

広い山頂をやや北に下り程なくT字路状の薄い踏跡を右に下ってピークを越えやや広くなつた尾根道を下りるとベンチのある摺針峠、エスケープルートとして左に御坂、右に 笹子に下る薄い踏跡が残ります。道は正面のブナ林を直登、登り切るとボツコの頭によく似た大洞山の山頂です。

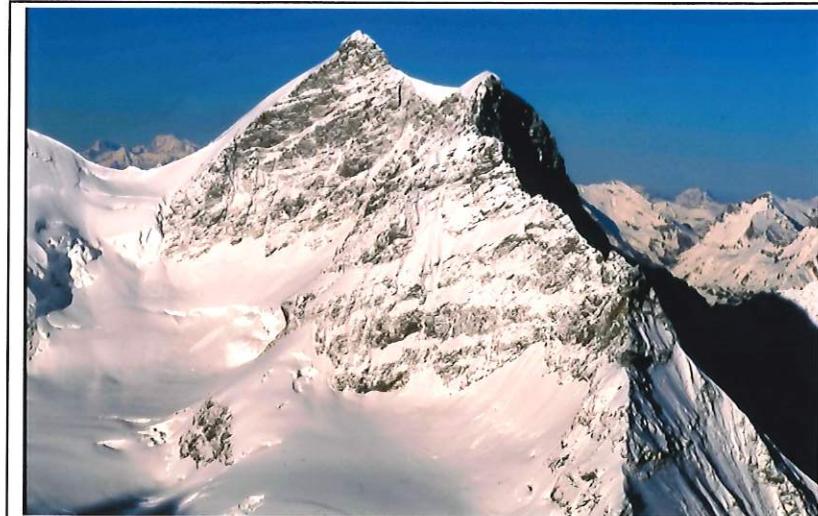
中尾根を下り新田へ

本年八月に紹介したこの山域をカヤノキビラの頭経由で中尾根の頭手前の分岐点に向かいます。

ベンチのある中尾根下降点から新田に向かって東に延びる尾根を下りますが右手植林地、左手雜木林に別れ所々登山者によつてつけられた白テープを追いかながら下り、鉄塔を経由して林道に出るとすぐ新田のバス停に到着します。大沢山を巡る一周八時間の山歩きです。

素晴らしい大月の山々（最終回）

尾根混じりの痩せ尾根で登り切った北峰の眺めが素晴らしい特に百蔵山西尾根の方に広がる富士山が絶景です。又麻生山に続く稜線の途中にある岩尾根にイワカガミの群生と植林地の少ない雑木林の広がりが素晴らしい。特に秋の紅葉は麓の瀬戸から見て葛野川の対岸に広がる色づきが素晴らしい眺めです。



メンヒ山頂よりユングフラウ

大沢山のイワカガミ

又、大沢山は笛子の稻荷神社境内からいきなりの急登で始まりそのまま山頂まで登りっぱなし、山頂近くでは更に傾斜がきつくなるかなりハードなコースです。標高も高く山頂から続く稜線は東に清八山、西に大洞山に伸び、ブナ、カエデ混じりの紅葉が素晴らしい又山頂を大洞山側に少し下つた岩尾根に広がるイワカガミの群生は市内の山では一番規模が大きいようです。行き交う人の殆どいない縦走路は秋、深い落ち葉に覆われて静かな山歩きを楽しむ登山者には大切なコースのようです。

都心のオアシス

このような山は市内には沢山あり休日には都内から各駅頭に毎週登山者が訪れ、行き交う登山者からは大月の山々が好きで良く来ます、との話を伺いますが、そのような環境に住んでいる事に幸せを感じます。今回、図らずも私にこのような機会を与えてくれた大月市民の会新聞と編集長及び関係各位に御礼を申し上げると共に、拙い山男の文章をお読み頂いた読者の皆様に感謝し、ここに素晴らしい大月の山々シリーズを終了させて頂きます。ご愛読誠にありがとうございました。

印象に残った市内の山、

三森北峰の大展望

踏破した山で特に印象深い山は七保入りの三森北峰と笛子の大沢山です。三森北峰は小姓から伸びる鋸尾根を登り、上部は岩